



豊田市【愛知県】 歴史文化基本構想

■策定年月：平成30年3月 ■人口：424,760人 ■面積：918km²
■担当課：豊田市教育委員会 教育行政部 文化財課（平成30年3月現在）



豊田市は、昭和34年に挙母市から豊田市へと市名を変更して以来、たびたび合併を繰り返し、地域ごとに特色を持つ、多種多様な歴史文化が息づく都市となった。当市の歴史文化を、貴重な財産として、市民と共に計画的に保存・活用し、次世代に継承していくため、平成28～29年度にかけて、「豊田市歴史文化基本構想」として取りまとめた。

5 歴史文化を表す
つのキーワード

自然への多様な適応、松平家の発祥の地、塩の道、
自立自尊の文化、“ものづくり”をつづける

課題

- ・滅失の危機に瀕する文化財へ対応するための、緊急的な取組が多い
- ・長期的視点の、保存・活用の方針を市民と共有できていない

保存活用方針

- ・歴史文化の収集・保存・情報発信のための取組の推進
- ・市民と共に次世代へ継承していくための取組の推進

保存活用のための取り組み

文化財の情報・資料のデジタル化とデータベース化

歴史文化及びその資料・情報を収集・保存し、発信するための取組として、文化財の情報や資料のデジタル化（画像・映像）とデータベース化を推進する。また、市民共有のアーカイブとして、公開・活用できる基盤を整備していく。



博学連携・生涯学習を通して、文化財を身近な存在に

市内の学校を対象とした郷土学習スクールサポートや、ボランティアとして活動する「とよた歴史マイスター」が実施する自主活動などにおいて、関連文化財群とそのストーリーを地域の人々に発信していく。発信することによって、文化財を身近に感じてもらい、文化財保護の気運を高める。



郷土資料館の活動の充実と、新博物館の整備を推進

文化財や歴史文化を未来に継承する拠点として、郷土資料館の活動を充実し、新博物館の整備と、地域資料館・個別資料館の再構築を進める。新博物館については、基盤機能のみならず、博学連携・生涯学習などを推進するための諸機能を備えていく。



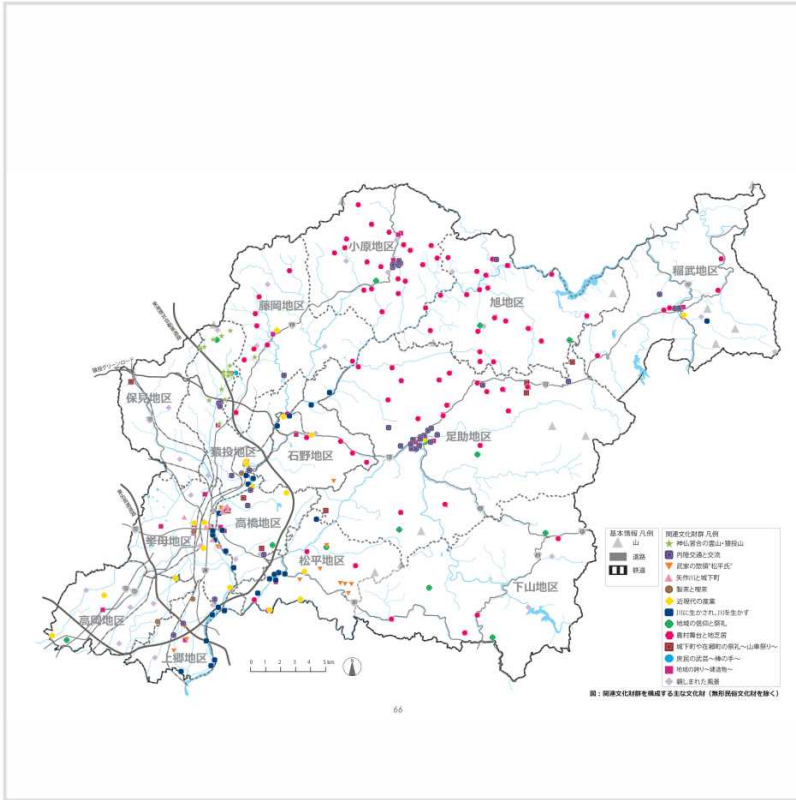
歴史文化を活用したまちづくりに資する取組を推進

各観光協会や地域住民との共働による、文化財を活かした観光メニューの開発などを連携して進める。また、地域の人々による地元の盛り上げの気運を高め、豊田市の歴史文化を地域振興などのまちづくりに効果的に活かしていくことを目指す。





関連文化財群



豊田市の歴史文化の特性を踏まえ、関連文化財群を13のテーマに整理した。関連する複数の文化財を、関連文化財群として捉え、一体的に保存・活用していくことで、個々の文化財の魅力を高めるとともに、効果的に価値発信をしていくことができる。

ストーリー

- ① 神仏習合の霊山・猿投山
- ② 内陸交通と交流
- ③ 武家の惣領“松平氏”
- ④ 矢作川と城下町
- ⑤ 製茶と喫茶
- ⑥ 近現代の産業
- ⑦ 川に生かされ、川を生かす
- ⑧ 地域の信仰と祭礼
- ⑨ 農村舞台と地芝居
- ⑩ 城下町や在郷町の祭礼～山車祭り～他



策定後の成果（見込まれる効果）

① 豊田市の歴史文化の総括的把握

豊田市の歴史文化や、文化財等に関わる既存資料について把握・整理した上で、指定文化財以外の文化財の総括的な把握を目指した。また、資料収集や収集方針を定めた。今後も、継続して調査を進めることで、保存整備・公開活用に向けた基礎資料を作成していく。



② 関連文化財群の効果的な発信

豊田市の各地域の特性に応じて、相互に関連する文化財を整理し、関連文化財群としてテーマやストーリーを設定することができた。これによって、本市の歴史文化の価値を分かりやすく明確に発信していくことができる。今後、博学連携や生涯学習活動を通じて発信し、また、新博物館整備事業や地域資料館の再構築に反映していく。



③ 文化財に接する機会の創出

インターネットなどによる情報発信によって、市民や来訪者が地域の歴史・文化財に接する機会を増やし、文化財への関心を高めることができる。身近な歴史文化の存在に気づくことで、「地域・郷土への愛着」の気運を効果的に高めていくことが期待される。

